

つながるスイッチ!!

久留米市社会福祉協議会

vol.16

支え合い推進会議

—その⑫—

「鳥飼校区」の
取り組み



鳥飼校区支え合い推進会議では、高齢者を対象にした困りごとアンケートの結果をもとに、「ゴミ出しに困っている人への支援ができないか話し合いを重ねてきました。」「アンケートで様々な困りごとがありました。」「すべて取り組むのは難しい。比較的取り組みやすいゴミ出し支援から活動を始めました」と原さんは話します。

しかし、校区内の団体に提案をした際、反対の声もあったそうです。「わざわざルールを決めてまですることではない、という意見が出ました。すでにゴミ出しを手伝っている人もいたからです。でも「ゴミ出し支援」という1つの取り組みを掲げて、皆でそこに向かうこと

ゴミ出し支援 スタート

支え合い推進会議の取り組みを紹介していくシリーズ第12弾。今回は「鳥飼校区」をご紹介します。

鳥飼校区支え合い推進会議
事務局 原学さん
副会長 内村達也さん
地域連絡部 部長 亀山善万さん

で、昔からの地域の助け合いの精神を復活させたかったのです」と内村さん。そこには、「ゴミ出し支援を成功させることが、地域づくりにつながる」という強い想いがありました。

何度も検討を重ねるうちに、「ゴミ出し」という困りごとへの意識が「他人事」から「自分事」へと変わっていき、令和4年10月、ついにゴミ出し支援活動がスタートしました。「ゴミ出し支援をきっかけに『地域づくり』をしよう」という考えのもと、支援する人は支援を受ける人の近所から募りました。そして、支援を受ける人と支援する人が話し合っ、具体的な支援の方法を決めるようにしています。支援を受ける側も助けられるだけでなく、周り協力しながら地域で暮らしていく一員だからです。また、「ゴミ出し支援」はあくまで地域づくりのための活動なので、支援を受ける人から料金は頂いていません。

ゴミ出し支援の工夫

実際に「ゴミ出し支援」をしているのは、近所に住む人をはじめ、大家さんや仲がよい老人クラブの会員さんなど様々です。



も、ヘルパーさんと連携して行ったり、複数の人が交替わりで支援したりと、支援を受ける人・支援する人の状況にあわせて工夫しながら行っています。

しかし、現在「ゴミ出し支援」をしているのは5軒ほど。「依頼が少ないのは、活動がまだまだ知られていないこと」と、困っている人が「手伝って」と言いづらい雰囲気があることが背景にあると思います」と原さん。

そこで、活動についてより広く知ってもらうため、次のような周知活動を行うことになりました。

1、「ゴミ出しをお手伝いします」と書かれたのぼり旗やチラシを作り、コミセンや地域の公民館、神社など、人目につくところに掲示して、ゴミ出し支援の活動をしていることをアピール。

2、校区の広報紙に、「手助けを求めることとはばからなくて」と題した記事を掲載し、「遠慮しなくていいですよ」というメッセージを発信。

このように、「ゴミ出し支援」が地域に定着するための工夫を試行錯誤しながら行っています。

ごみ出しをお手伝いします

「ごみ出しに困っていませんか？」

重いごみ袋を
持って歩くのは大変



杖をついて
ごみ袋を運ぶのは怖い

① 家の前に
ゴミを出します。



② 目印の旗を
立てます。



③ ご近所の方が
集積所まで
運びます。



ご相談ください

● 鳥飼校区まちづくり協議会
支え合い推進会議
(電話) 33-4534

活動して 思うこと、 これからのこと

● 原さん

まずは、今取り組んでいるゴミ出し支援の活動をもっとPRして、多くの人に利用してもらえるよう、コツコツ地道に取り組んでいきたいと思っています。そして今後は、困りごとアンケート結果に出ていた、他のたぐさんの困りごとにも取り組んでいけるようにしたいです。ただ、校区全体に後継者不足という問題があるので、これからは、若い人にも地域の活動に参加してもらえ、ような取り組みを少しずつ考えていけたらと思います。

● 内村さん

今、自治会同士が統合しようかという話が出ていくくらい、校区全体が後継者不足で悩まされています。役を務めているメンバーもほぼ70歳以上で、高齢者で校区を動かしているような感じでした。そして少子化で子ども会活動も減っており、今、校区の土台が揺らいでいるのではないかと懸念しています。

● 亀山さん

ですね。そして、「向こう3軒両隣」の精神、みんなで助けあって暮らしていくという地域を改めてつくってきたいです。

ゴミ出し支援では高齢者を対象にしていますが、「共働きの若い世代のゴミ出しを手伝うのはダメなのか」、「困っている人は高齢者だけではないのではないか」という意見もあります。

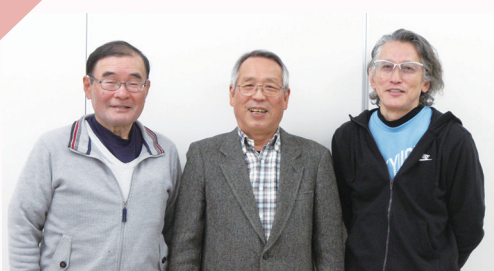
ルールを決めないと支援する側との連携が取れず取り組み自体がうまくいかない、でもルールを決めすぎると利用者が少なくなってしまう...と悩んでいるのが現実です。

また、支援活動に取り組むだけでなく、その担い手がどれだけいらっしやるのかも同時に考えないといけないですね。きつと地域と関わりたくないと思っている人もいます。思います。そういう人達に、どのように地域活動に関わってもらおうかが今後の課題となってくると思います。まずは、自分が住んでいる地域に問題意識を持つことが大事ではないでしょうか。一方で、地域と関わりたい、何かできることをしたいという人達もたくさんいるはずですよ。みんなが鳥飼校区を盛り上げていきたいです。

取材を終えて

「ゴミ出しという身近な支援ひとつに絞って、その活動を通して地域づくりを進めている鳥飼校区。取材中、「支援に取り組むことは、サービスづくりではなく、地域づくりです」と皆さんが口にしていた言葉。自然に支え合い、助け合う校区にしようという熱い想いが伝わってきました。そして、子ども達や若い世代に目を向けて、新たな取り組みを行っていることも印象的でした。「校区で子ども達を育てていく」という内村さんの言葉。高齢化、少子化へ不安を感じながらも次に進もうとされています。

- ゴミ出し支援はサービスづくりではなく「地域づくり」
- 支援を受ける人と支援する人が話し合って、それぞれの状況にあわせた支援を行っている
- 困っている人が声をあげやすいような工夫を凝らした周知活動を行っている



原 学さん 内村 達也さん 亀山 善万さん

内村さんの趣味はゴルフ、原さんは畑仕事が目録だそう。亀山さんは市民マラソンに参加したり、「津福山の会」に所属して山登りに行ったりもされているそうです。そして、アクティブな3人の共通点はお酒を飲むこと。「最近では身体を気づかって麦焼酎を飲んでいますが、日本酒、ウイスキーなどなんでも大好きです(笑)」と内村さん。コロナ前は、会議後にメンバー皆で飲み会をするのが楽しかったそうです。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
TEL: 0942-34-3035 / FAX: 0942-34-3090
メール: heartful@heartful-volunteer.net
HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会

検索

webサイト

[note——つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!

つながるスイッチ!!は
HPでも
webマガジンでも
掲載中